

まんのう町教育委員会だより

爽風

そうふう

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 45

令和6年【2024】

10月1日 発行



特集 英語教育のこれから

Contents

P.6～7 園・学校ウォッチング
仲南小学校・満濃南こども園

P.8 黄色い魔法のかかる町
P.9 シリーズ「声」

P.10 ホットニュース
P.11 関係機関から



英語教育のこれから

英語ができることへの憧れ

「外国語※」という教科は、平成22年度までは、中学生になって初めて勉強するものでした（※「外国語」は教科の正式名称です。通常は英語を実施しており、ここからは「英語」と表記します）。中学生になると英語の勉強ができることは、子どもたちにとって、小学校から一つ上の学校に進学することと相まって、とても嬉しく、誇らしいことだったにちがいありません。

多くの日本人にとって、「英語ができること」は憧れでした。なぜなら、我が国は明治維新以降、欧米列強に肩を並べる国づくりをめざし、近代国家への道を歩んできましたが、どんなに近代化が進んでも、多くの日本人は英語に対する苦手を意識を払拭することができなかったからです。

実際、国際語学教育機関「EFエデュケーション・ファースト」が2023年に発表したランキングでも、日本人の英語力は、113か国中87位です。中学校からの英語教育をずっと積み重ねてきたにもかかわらず、日本人に英語力が身につかないのは、なぜなのでしょう。

これまでの英語教育

これまで、日本の英語教育は、どちらかというと音声言語よりも文字言語に重きがおかれ、文法に基づいた正しい英文を習得することがめざされてきました。そして、それは、中学校では高校入試、高等学校では大学入試へつながるものとしても大事にされてきたのです。つまり、点数がとれる英語は身につけたけれども、残念なことに、それは使える英語にはならなかった、ということでしょう。

使える英語をめざして

これからの英語教育は、コミュニケー

ションツールとして「使える英語」を身につけさせていこうとしています。そのため、次のことを大切にしているのです。

- 正確さよりも、多様な英語を受け入れること
 - 文法の間違いを指摘するよりも、相手が伝えようとしていることを受け止め、通じ合おうとすること
 - ネイティブ・スピーカー※の発音にこだわるよりも、自分が伝えようとして通じた発音や英語を大事すること
- 実際、国際社会で話されている英語の3分の2は、ノンネイティブ・スピーカーによるものだといわれています。

※ネイティブ・スピーカー…その言語を母語とする人のこと。英語の場合、イギリス、アメリカ、オーストラリアなどの人。

さて、平成23年度から、全国の小学5・6年生で「外国語（英語）活動」が必修となり、さらに令和2年度からは、それが教科となりました（まんのう町は、国に先がけて、これよりも早く実施しています）。

しかし、全ての子どもが、将来、英語を必要とする職業に就くわけではありませんし、外国で生活するわけでもありません。むしろ、生涯を日本だけで過ごす子どもの方が多いのかもしれない。

ですから、全ての子どもに同様に高い英語力を求めることよりも、小、中、高、大と学んでいく中で、一人一人が自分の必要に応じた英語力を身につけること、そして、恥ずかしがらず「マイ・イングリッシュ（※左ページ参照）で、コミュニケーションの輪を広げていけるようにすることの方が、より重要なのではないでしょうか。

まんのう町で昨年度から実施している「オンライン英会話」は、間違いを恐れずのびのびと学ぶことができ、コミュニケーションツールとしての英語が身につく、これからの時代にマッチした取り組みではないかと思っています。

知識としての英語

勉強したけど
使えない



教師が必要なものを与える

正しい形式や意味を知識として覚えることにより、テストや入学試験での合格をめざす。誤りは減点の対象となるので許されない。

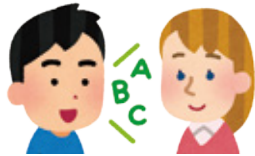
ネイティブ・スピーカーのような発音やイントネーションを「正しい英語」とし、それをめざす。

授業で簡単な会話はできても、教室の外に出るとうまく話せない。片言の英語を恥ずかしいと思う。



使える英語

いろいろな価値に
触れ、人間としても
成長していく



子ども自らが主体的に学び取る

一生を通じて使える英語を身につけることをめざす。誤りを恐れない。

通じ合うことが大事。ネイティブ・スピーカーのような発音やイントネーションにこだわらず、多様な英語を認める。



恥ずかしがらず、My English※で自信をもって話そうとする。

※My English…教科書や問題集の中の英語（自分の外にある英語）ではなく、自分が所有者となる、自分の中に息づく英語のこと。人は同じ言語を話していても、一人一人表現や発音などが微妙に違ってくる。3人いれば3人それぞれが、「マイ・イングリッシュ」を持っている。（慶應義塾大学名誉教授 田中 茂範氏による）



「オンライン英会話」の魅力

「オンライン英会話」とは、教室で教師と対面で受ける授業とは異なり、インターネットを使ってパソコンやスマートフォン、タブレット端末から行う英会話レッスンのことです。
子どもたちは一人一人、自分だけの講師と1対1で会話をすることができます。

まんのう町の オンライン英会話

昨年度は小6と中2を対象に、それぞれ5回ずつ実施しました。今年度は、小学校は昨年度同様6年のみ、中学校は全学年に対象を拡大し、6月から開始しています。それぞれの学年で、年間10回実施する予定です。

自分だけの講師と1対1で会話ができる、うまくできなくても講師がそのままを受け入れ認めてくれる、まわりはみんな自分の会話に夢中なので人目を気にせずのびのびと会話ができる、などの理由から、回を重ねるごとに子どもたちの楽しい時間となっているようです。

答え方が分からなくて困ったときは、やさしく教えてくださったので、楽しく学習することができました。今学期でいることを使って、外国の人と話すことができるんだと思いました。

始まる前からわくわくしていました。実際に講師とやり取りすると、ヒントを出してくれたりジェスチャーをしてくれたりして、どんどん会話することができました。

発音が違っていたところと一緒に繰り返し練習してくださったので、正しい発音で覚えることができました。習ったことを普通の授業に生かしたいです。



満濃南小学校6年生
(第1回目：6.13)



満濃中学校2年生
(第1回目：6.13)

講師が何を話しているのか、理解することが難しかったです。私は英語が苦手ですが、チャット機能を使って、何を話しているか分かるようにしてくれました。2学期も楽しみにしています。

講師がスラスラと話すので聞き取るのに苦労しました。聞き取れて意味を理解できたり、自分の話が相手に伝わったりしたときは、とても嬉しかったです。あっという間の25分でした。

とても緊張しました。自己紹介や部活動、給食について話しました。私が会話に詰まっていることに気づいて、どうにか分からせようとしてくださったので、緊張もほぐれました。



実施前は不安や心配を口にする生徒が多かったですが、終わってからは「楽しかった」「またしたい」という声がたくさん聞こえてきました。「英語で自分の考えを伝えることができるようになりたい」と、英語の学習に対して前向きに考える生徒が増えたように感じます。この気持ちを自信につなげていくことができるよう、自身の授業力を磨いていこうと思います。

満濃中学校英語科 藤岡正仁 教諭

まんのう町が導入しているのは、フィリピン人講師による「オンライン英会話」です。フィリピン人講師の話す英語は発音がクリアでスピードもあまり速くなく、とても分かりやすいので、英会話にまだ慣れていない子どもたちに、とても適しています。
また、フィリピン人は明るく温かな性格の人が多く、とても親しみやすいと言われています。実際、どの講師も子どもたちと好意的にコミュニケーションをとってくれており、引っ込み思案な子、関係づくりが苦手な子も、知らない間に会話に引き込まれていきます。

That's right.

Good job!

画面の中から、身振り手振りを交えながら指示を出したり、表情豊かに励ましたりしてくれる明るい講師たち

Next is 9.

講師たちは、画面に文字を書き加えたりラインを引いたりしながら会話を進めます。



英語を聞き取れず困っていると感じたとき、講師が補助的に英文を出す「チャット機能」

困ったときに押せる「ヘルプボタン」

今年度、本校では、教育目標「ふるさとを大切に思い、自ら考え、ともに伸びる子ども」の育成に向け、学校が家庭・地域・関係機関と「つながる」ことを大切にした教育活動を進めています。

学年をこえて「つながる」

いろいろな学年の子どもで編成した縦割り班で活動する「なかよし活動」を発売に行っています。5月初めに、「新入生歓迎遠足」を行いました。全校生が8つの縦割り班に分かれ、「なかよしスタート会」で自己紹介をした後、徒歩で満濃池森林公園へ行きました。公園では、空を泳ぐ鯉のぼりのように、いきいきと王様じゃんけんや誕生日グループ作り、色別遊びを楽しみました。6年生を中心に、高学年の子どもが1年生の手を引いたり、「足、痛くない?」と気遣う声掛けをしたりしていました。低学年の子ども、よくお世話をしてくる上級生にあこがれをもったことでしょう。



新入生歓迎遠足

これを機に全校生がなかよくなれるように、高学年が企画してみんなが遊ぶ「なかよしタイム」を行いました。全校生が笑顔でなかよく活動する姿がたくさん見られました。今後は、中学年、低学年と、すべての学年が企画・運営をします。



図書ボランティア
読み聞かせ

合言葉は 『つながる』

仲南小学校

家庭・地域・関係機関と「つながる」

子どもを地域ぐるみで育てようという、地域の方々（保護者を含む）の温かい支えが本校にはあります。地域の見守りの方は、集団登校をしている徒歩通学の子ともたちと坂の上にある学校まで毎朝一緒に歩いてくれています。バスの運転手さんや地域の見守りの方が、バス通学の子どもたちにも、ぬくもりある対応をしてくれています。



登校の見守り



ひまわり学習

心が「つながる」



草抜きボランティア

「ほく、草抜き大会をきつかけに、草抜きに興味がいいたんです」一人の何気ない言葉から始まったボランティア活動に、賛同するなかまが集まり、新たな輪が広がっていききました。誰に言われるともなく、「朝、挨拶運動をやりたい」と自分から動き出そうとする子ども、子ども、自分たちの力で学校生活をよりよくしたいという思いが、行動となって表れています。



協力してプール掃除

プール掃除では、水の汚れやバケツの重さをもっともせず、気づけばバケツリレーで協力する一生懸命な姿が見られました。終わりの合図に、「楽しい!もつとやりたかった」「来年も絶対にやりたい!」といった声があがりました。同じ目的に向かってなかつながる楽しさを味わった経験だと言えます。

これからも特別な行事だけでなく、日常生活で心がつながれば、楽しく、幸せを感じることができるようだと実感できるよう、サポートしていこうと思います。

新しい満濃南こども園には「今」と「これから」をみんなで考えていく楽しさがあります。今年度も職員同士が思いを出し合い、楽しみながら、子どもたちがわくわくして遊べる環境づくり、自立しようとする子どもを支える生活環境づくりに取り組んでいます。

緑豊かな園庭に

職員で話し合っって植えた草花や子どもたちが育てる野菜、用務員が生きていきと咲かせてくれる季節の花など、緑豊かな園庭になり、小さな生き物にたくさん出会えるようになりました。子どもたちは、虫探しに夢中です。虫を捕まえた子がいると、いつの間にかつづのか、小さいクラスの子ともたちが集まってきて一緒にのぞきこんでいます。小さな生き物たちとふれ合いながら、自然と異年齢児が関わり合う姿はとても微笑ましいです。



チョウチョになったよ



わくわくがいっぱい!

「やってみたい!」を子どもたちと一緒に

満濃南こども園



サッカー場ができたよ



まんのういけや

子どもたちがつくり出す遊びの場

3〜5歳児の保育室がつつつ移動し、5歳児の保育室から園庭までが少し遠くになってしまいました。でも、遊戯室がすぐ近くになり、遊戯室前のテラスでの遊びを考え出した子どもたち。「見てーサッカー場ができたんで」と5歳児の子どもたちが嬉しそうにサッカー場に案内してくれました。

その場所では、他にも水鉄砲をしたりスライ力割りをしたりと、楽しい遊びが広がっています。保育室が移動した今年ならではの遊びの場。子どもたちが自分の園を自分たちのものとして使いこなしていく姿に頼もしさを感じています。

また、昨年とは違う新たな場所での泥んこ遊びが大盛り上がりだった今年の夏。

3歳児クラス前の地面に凹凸を見つけた子どもたちが水を流し始めました。水を流して地面を掘り、どんどん穴が大きくなっていきます。ここを掘っていいのかな...という保育者の心配をよそに、子どもたちは力を合わせて掘り進め、ついに「まんのういけや!」と大満足でした。子どもたちのやりたい気持ちを受け止め一緒に遊んで遊び、子どもたちも保育者も充実感を味わうことができました。

そして、雨上がりの園庭のあちこちにできる水たまりは、わくわくする遊び場です。水たまりを走ったりジャンプしたりして水しぶきを喜び、心を弾ませて遊びました。その後、乾いた地面にねっとりした泥を発見。さらに乾くとテカテカと光沢の



水たまり
ジャブジャブ!

子どもを主体とする園生活に

一人一人の子どもにゆったりと関わり、育ちを支えていきたいという思いから、0〜2歳児の生活を見直しています。低年齢の子どもたちの生活を一緒に行動するとあたたかく関わるようになっていきました。それぞれのリズムに合わせて食事や着替え、排泄などに関わることで、一人一人の子どもたちの動きや気持ちをより細やかにとらえ、ていねいな援助ができます。



給食を食べたい子、まだ遊びたい子...
子どもを主体とする生活



一人一人を大切にしている関わりで0〜2歳児の健やかな発達を支え、3歳以上の子どもたちの豊かな生活につながるよう取り組みを進めていきたいと思います。そして、わくわくがいっぱいの園づくりをめざします。



第31回 スクールカウンセラーから見た子どもたち

県から2名のスクールカウンセラーが町内の小・中学校に派遣されています。各学校で子どもたちや保護者、教職員の相談を受け、心理についての専門性を生かして、解決のための助言や指導を行っています。そんなスクールカウンセラーの「声」を聞きました。

人とのつながりを支える

スクールカウンセラーという、悩みを聞くことをイメージされるかと思いますが、相談を聞くことは、スクールカウンセラーの活動の中心ですが、他にもグループワークを取り入れた授業をすることがあります。子どもたちには、「心を元気にするお手伝い」と説明しています。子どもの育ちを支える活動のひとつです。子ども同士や子どもと先生の関係づくり、ストレスや心の働きについて知ることなど、目的に合わせて様々なゲームやワークをしています。

先日、ある小学校で、「凍り鬼」を発展させたゲームをしました。「凍り鬼」は、鬼にタッチされると凍って動けなくなり、味方にタッチしてもらうと動けるようになる鬼ごっこです。今回は、凍った友だちを助ける時に、自分の名前を書いたカードを使いました。タッチをする代わりに、カード（思いやりの気持ち）を渡して助けます。友だちを助けると、自分のカードが減っていくので、自分の思いやりで友だちを助けられた達成感が味わえます。一方で、自分を助けてくれた友だちのカードが手元にたまってくるので、たくさん思いやりを受け取ったことも実感できます。このように、カード（思いやりの気持ち）のやり取りを体験してもらいました。鬼ごっこに勝たいたい気持ちとともに、たくさんの友だちにカード（思いやりの気持ち）を渡して助けようという一生懸命な姿がありました。



子どもたちも、ストレスを感じたり、悩みや不安を抱えたりすることがあります。そんな時、支えになるのは人とのつながりです。保護者をはじめとした信頼できる大人との関係はもちろんですが、子ども同士も互いに支え合い育っていく力もっています。グループワークが子ども同士の関係を深め、子どもたちがもっている力を発揮させ、自分らしく育っていく手助けになればと願っています。

スクールカウンセラー 熊谷 由紀

解ってほしい、認めてほしい ～信じることの大切さ～

スクールカウンセラーとして子どもたちの相談に応じながら、胸に蘇ってくるのは、息苦しかった思春期に自分と向きあってきた自身の姿です。どうやって自分は乗り越えてきたのか。決して教科書的な模範的な解答だけではなかったように思います。マインス思考で後ろ向きだったり、時には適当に立ち回ったり流したりした自分もいたことを思い出します。

思春期は、人からどう見られているかとても気になる年代です。自分よりも優れた人と自身を比較し、自分を低く評価してしまいがちです。ある時、子どもに「あなたの～な部分は素晴らしい長所だと思つよ」と伝えると、驚いた様子で「短所だと思っていたところを長所と認めてもらえて嬉しいです！」という言葉が返ってきました。

子どもは皆、自分を解って欲しい、認めて欲しいという願いをもっています。その思いは、保護者に対して特に強いでしょう。保護者から思春期の子どもへの接し方について相談を受けることがあります。親が子どもの存在を大切に受け止め、子どもとの日常の暮らしを楽しむよう努めていけば、子どもは自分のことが大好きになります。最も身近にいてわが子の幸せを一番に願っているのは親です。

「私の愛するわが子。大丈夫、いろいろなことを一緒に乗り越えていけるはず」と、親が自分を信じてくれているという安心感こそが、子ども自身の自己肯定感を高めるとともに自立を促してくれると思います。

相手の気持ちを理解しようと努力することが、お互いの信頼関係の構築につながっていきます。だからこそ、私も子どもたちや保護者の声にしっかりと耳を傾けていきたいと思っています。



スクールカウンセラー 須崎 仁美

黄色い魔法のかかる町



園児が仲南地区のひまわり畑を訪ねました。ひまわり迷路を歩いたり、鐘を鳴らしたり、展望台から眺めたりしました。自分の顔よりも大きくてきれいなひまわりを満喫しました。



先生方も学んでいます

就学前教育研修会 (6.19 / 7.11 / 7.23)

こども園の全職員を対象に、「子どもを尊重する保育」をテーマに、3回に分けて実施しました。有信眞智子氏（県幼児教育スーパーバイザー）に講話をしていただきました。子どもたちの健全な心と体の発達を図るために、子どもの人権を尊重する保育者としての心構えやチェックポイントについて具体的に教えていただきました。



第2回研究員会（こども園部会）(7.9)



今年度のテーマ「遊び心をもって生活を見直してみよう」について、各園が園内研修で取り組んできたことを発表し、これからの取り組みについて考えました。指導者の香川大学教育学部松井剛太先生から、各園の取り組みについて具体的な助言をいただき、どの園もこれからの取り組みの方向性を明確にできました。

手袋をはくのを嫌がる子どもと保育者に分かれて、どんな言葉かけをすればいいのかについて、ペアで話し合いました。

特別支援教育部会研修会 (8.6)



各小中学校の特別支援教育コーディネーターの教員が、個々の子どもに寄り添った支援を行うために、早期支援教育センター「たむ」との連携について再確認しました。その後、各校で支援の必要な子どもにどのように取り組んでいるのかについて情報交換を行いました。

人権・同和教育部会研修会 (6.27 / 7.31)



こども園・小中学校の人権・同和教育担当教員が、ハンセン病患者に対する偏見・差別について、県のパンフレットや動画を通して学びました。教員自身の知識を深め、人権感覚を高めることにより、子どもたちとの接し方や指導について考えることができました。

保護者からの発達に関わる相談で、「医者」に薬を勧められたが、迷っている」という相談が複数ありました。そのような場合は、基本的には「医者の指示通りに服薬すること」「服薬を開始することを園・学校へ伝え、園・学校でも家庭でも、子どもの様子の変化を記録し、医者に伝えること」が大事であると伝えてきました。

しかし、最近では、発達障害関連の薬の種類が増えてきたために選択肢が多数あり、保護者はかえって迷うのではないかと考えられます。また、相談の中には、不眠症状や夜尿症に関する薬の相談も出るようになりました。

最近では、保護者がインターネットなどで情報を検索したり、SNSなどで保護者同士がやり取りをしたりするようになったこともあり、誇張された薬のマイナス面・プラス面の情報に影響を受けて、かえって混乱している場合もあるようです。

このような状況から、保護者に薬の正確な情報提供の必要性が増している、と強く感じました。そこで、薬物療法について分かりやすく解説し、読みやすい本がないかと探していたところ、私個人としては現段階で最も分かりやすいと思う本を見つけたので、紹介します。

その本は、「親の疑問に答えるー子どものこころの薬ガイド」(日本評論社)です。

発達障害のある子どもに対する薬について書かれています。まず初めに、ADHDの症状改善のための4種類の薬について詳しく説明しています。次に、自閉スペクトラム症に使われる可能性のある薬について13の事例を取り上げています。また、発達障害が重複している場合の薬についても触れています。

II うちの子の発達障害には薬が効くのでしょうか

I 薬物療法とどう向き合ったらいいか

本書の内容を簡単に紹介します。

薬を飲ませることへの不安や、子どもに服薬のことをどう説明するかなどについて書かれています。また、薬の効果と副作用、服薬の仕方など、19の事例を通して分かりやすく解説されています。



著者の岡田俊氏は、臨床経験も豊富な児童精神科医で、保護者からたくさんの相談を受けてきたことから、本書の執筆に思い至ったそうです。

※「たむ」では、子どもの様々な成長発達上のつまずきや困難にかかわる相談支援を行っています。その中で気づいたことや伝えたいことを「たむ通信」でお届けしています。

III うちの子のこころの病気には薬が効くのでしょうか

うつ病や過食症などのこころの病気についての薬について書かれています。ここでは、8の事例を取り上げて説明しています。

本書の中に出てくる薬の名前は、カタカナ表記で長いために、とっつきにくい印象をもつかもしれません。しかし、それぞれの薬を正しく理解するためには、億劫がらずに読むことが必要です。

また、自分のお子さんにすぐにあてはまるものではありませんが、多くの事例を取り上げており、非常に具体的な内容です。そのため応用できる場合がたくさんあると思います。

最後に伝えたいことは、今回薬の本の紹介をしたことにより、服薬を勧めているわけでも否定しているわけでもありません。薬について少しでも役立つ、より正確な情報を提供したいという思いからです。

「気になる子」「困難をもった子」には、まず関わり方をちゃんと工夫したり、少し変化を加えたりしてみてください。そうすることで、すいぶん状況がよくなるのがたくさんあります。そのような関わり方を続けていても、状況がなかなか改善せず、医者から薬の服用を提案された場合には、本書が参考になるのではないかと思います。紹介したものです。



今年もがんばっています!! 満濃中学校

■ 郡市総体 (団体)

部 活 名	結 果
剣 道	男子 優勝 女子 優勝
軟 式 野 球	優勝
バレーボール	男子 優勝 女子 優勝
卓 球	男子 優勝 女子 優勝
柔 道	男子 準優勝
ソフトテニス	男子 3 位 女子 準優勝
バスケットボール	男子 優勝 女子 3 位
サ ッ カ ー	準優勝
ソフトボール	準優勝
水 泳	男子 優勝 女子 優勝 総合 優勝

※ 郡市大会の結果は、紙面の都合で、3位までを掲載しました。



■ 郡市総体 (個人)

部 活 名	結 果
剣 道	男子 優勝 松岡虎太郎 準優勝 小嶺 快來 3 位 湧川 陽太
	女子 優勝 小川 結衣 準優勝 佐々木結愛 3 位 松葉 南緒 北川 心桜
	男子 シングルス 優勝 増田 伊吹 3 位 小林 結志 竹本 励
卓 球	男子 ダブルス 優勝 多田 倫大 千葉 阿南
	女子 シングルス 優勝 大谷 真生 準優勝 田口 里香 3 位 那須 日和 満岡 友凜
	女子 ダブルス 優勝 栗尾 円香 山本 莉央 谷江 一華 大岡香里菜
ソフトテニス	女子 ダブルス 3 位
柔道	男子 55kg級 優勝 竹内 圭吾 準優勝 増田 昇竜
	男子 50m自由形 優勝 石崎 幸弥 100m自由形 優勝 植條 暢輝
	男子 100m背泳ぎ 優勝 三井 拓未 100mバタフライ 優勝 田中 修平
水 泳	男子 100m背泳ぎ 優勝 森本 彩耶 50m自由形 優勝 山田 麻央 100m平泳ぎ 優勝 今滝 優花 100m自由形 優勝 森本 今滝 400mリレー 優勝 山田 三野
	男子2年 100m 優勝 中西 一真
	男子共通走幅跳 優勝
	陸上

■ 県総体 (団体)

部 活 名	結 果
剣 道	男子 優勝 女子 準優勝
バレーボール	男子 準優勝
軟 式 野 球	3 位

祝 剣道男子 全国大会出場!

■ 県総体 (個人)

種 目	結 果
水泳 男子	100m平泳ぎ 優勝 福江結太 200m平泳ぎ 優勝

■ 四国総体 (個人)

種 目	結 果
水泳 男子	100m平泳ぎ 優勝 福江結太 200m平泳ぎ 準優勝

祝 福江さん 全国大会出場!

100m平泳ぎ 3位
200m平泳ぎ 8位

■ 香川県なぎなた選手権大会 (個人)

種 目	結 果
演技競技	谷川愛良・白川陽葵 優勝 篠原綾乃・井上亜依香 準優勝 増田芽依・中野莉乃 3 位
	篠原綾乃 優勝
	入江澤音 準優勝 篠原希実 3 位
試合競技	

■ 全日本吹奏楽コンクール (香川県大会)

部活名	結 果
吹 奏 楽	A部門 銀賞





編集後記

初めての「オンライン英会話」に臨む、満濃中2年生の教室にお邪魔しました。緊張した面持ちで開始を待つ生徒たち。初めて対面する外国人講師との1対1の会話を前に、胸の高鳴りが止まらないようです。

開始時刻になり講師が画面に現れると、さっそく英会話が始まりました。分からなくてもOK! 失敗しても大丈夫! 講師の笑顔とフレンドリーな声かけで生徒たちの緊張は徐々にほぐれ、彼らは、身振り手振りを交えながら、どんどん会話に集中していきました。

グローバル化が加速する現代、日本語を話すように英語を話せたら、と思う人は多いでしょう。けれども、現実には、なかなかそうはいきません。日常生活の中でも出会うようになった外国人に会話を試みてみよう、頭の中で英文を組み立ててはみるものの、間違うのが怖くて言葉に出せない…これが、知識として正しい英語を身につける教育を受けて育ち、かつ仕事などで英語の力を必要としていない、多くの日本人の英語力ではないでしょうか。

そこで、自分はもう無理でもせめて我が子には…と考える人も多いかもしれません。「英語が下手だとグローバルな社会では相手にしてもらえない」日本人はそんな心配をしがちだけれども、そんなことはない、と落合陽一氏は言います(『働き方5.0』小学館新書/2020.6.3)。

外国旅行をしても、「流暢な英語をしゃべらないとバカだと思われる」という恐れを抱き、自らコミュニケーションの機会を狭めてしまっている、言っている内容がまともならバカにはされないのに…とも。

確かにテレビでは、来日した外国人が、たどたどしい日本語を恥ずかしがることもなく、思いを伝えようと笑顔でインタビューに応じる様子をよく見かけますが、言語が十分でなくても、意思の疎通は十分可能だと感じます。

これからの時代、コミュニケーションで大事なものは、語学的な正しさではなく「ロジックの正しさ」だ、と落合氏は言っています。美しい英語を話せるだけで信用されることはない、物事を深く考え、それを「言語化」できる能力を身につけること——言語化の能力とは語学力にあらず、解釈力や説明能力のことだ、と言うのです。

グローバル化により増加する外国人とのコミュニケーション。だからと言って、「語学力」を最優先課題とするのではなく、まずは母語である日本語で深く考え、それを筋道立てて整理できること、ツールとしての言語は十分でなくても、その内容に耳を傾けてもらえる話ができること、それが重要だということではないでしょうか。

(Y. T)

表紙絵：前川 湘(満濃中学校美術部1年)

次号予告
(12月1日発行)

特 集
園・学校ウォッチング

学び継いでいきたい「平和の尊さ」

満濃南小学校・四条こども園